

全国高校ラグビー 来月27日開幕

代表51校が出そろおう

第94回全国高校ラグビー代表校

中標津 (北北海道) 8年ぶり ⑦	光泉 (滋賀) 4年連続 ⑥
札幌山の手 (北北海道) 15年連続 ⑮	京都成章 (京都) 3年ぶり ⑦
青森北 (青森) 4年連続 ⑮	大阪朝鮮高 (大阪第1) 6年連続 ⑨
黒沢尻北 (岩手) 3年連続 ⑤	東海大仰星 (大阪第2) 2年連続 ⑮
仙台育英 (宮城) 19年連続 ⑳	大阪桐蔭 (大阪第3) 3年連続 ⑨
秋田中央 3年ぶり ⑨	報徳学園 (兵庫) 3年連続 ④
山形中央 (山形) 17年連続 ㉓	御所実 (奈良) 2年ぶり ⑨
学法福島 (福島) 初出場	近大和歌山 (和歌山) 初出場
茗溪学園 (茨城) 3年連続 ㉒	倉吉北 (鳥取) 2年連続 ②
国学院栃木 (栃木) 15年連続 ㉒	石見智翠館 (鳥根) 24年連続 ㉒
明和県央 (群馬) 2年連続 ⑤	津山工 (岡山) 5年ぶり ㉓
深谷 (埼玉) 2年ぶり ⑦	尾道 (広島) 8年連続 ⑨
流通経大柏 (千葉) 20年連続 ㉒	萩商工 (山口) 2年ぶり ㉒
国学院久我山 (東京第1) 2年ぶり ㉓	徳島科学技術 (徳島) 初出場
東京 (東京第2) 4年連続 ⑪	高松北 (香川) 4年ぶり ⑨
慶応 (神奈川) 4年ぶり ㉓	北条 (愛媛) 3年ぶり ④
新潟工 (新潟) 11年連続 ㉓	土佐塾 (高知) 3年連続 ⑭
高岡第一 (富山) 初出場	東福岡 (福岡) 15年連続 ㉓
日本航空石川 (石川) 10年連続 ⑩	佐賀工 (佐賀) 33年連続 ㉓
若狭東 (福井) 2年ぶり ㉒	長崎北陽台 (長崎) 3年ぶり ⑭
日川 (山梨) 9年連続 ④	荒尾 (熊本) 2年ぶり ⑦
岡谷工 (長野) 3年連続 ㉒	大分舞鶴 (大分) 29年連続 ㉓
関商工 (岐阜) 4年連続 ㉓	高鍋 (宮崎) 4年連続 ㉒
静岡聖光学院 (静岡) 4年ぶり ③	鹿児島実 (鹿児島) 2年ぶり ⑮
春日丘 (愛知) 2年連続 ④	コザ (沖縄) 2年ぶり ⑬
朝明 (三重) 3年連続 ⑤	

※丸数字は出場回数

冬、挑む

■ 6 ■

3年ぶりの花園となる秋田中央。現在の部員にとっては初めてとなる大舞台に向け、気迫のこもった練習を続けている。BKの要WTB松本侑(3年)は「公式戦で全国の強豪と戦えることが楽しみ。秋田のチームは強いと言われない」と意気込む。

県予選決勝では、前回、前々回と2年連続花園8強の秋田中央は、前回の花園大会で、田工に20-0の完勝。持ち味のアタック力で後半畳み掛け、強化を図ってきたディフェンスも機能し、攻守ともに安定した戦いぶりだった。

今春の全国高校選抜大会が大きな自信になった。予選リーグで、強豪の国学院久我山(東京)を相手に19-29で敗

たら十分に勝てた試合だった」と試合内容に手応えを感じた。一方で、アタック力を前面に出すだけの戦い方では全国で勝ち抜けないとも感じ、ディフェンスを固めることに力を入れた。

9月、奈良県に遠征し花園Bシードの御所(こせ)実と対戦し完敗したが、ディフェンスの堅さに大きな刺激を受けた。オフェンスはFWとBKが一体となつてつなぐラグビーが身上。スピードと接点の強さを備えるCTB土橋永卓(同)と松本が攻撃を引っ張った。ポジションの早さ、タックルの低さなど、自分たちの弱さを克服したいと思つて、1対1になれば、速さで振り切る自信がある」と松本。土橋は「アタックもタックルも激しいプレーを見せたい」と気合十分。FWリターのHO渡部正一(同)は突破力、機動力に加え運動量も豊富で、忠実なフォロワーでトライを奪取する。

鍛えた守備に安定感

1回戦で当たる若狭東(福井)に対しては戦力で優位に立つことから、縮まった試合内容で勝つて勢いに乗りたいところ。2、3回戦に進むと佐賀工、東福岡の強敵とぶつかる可能性が高いために、大会序盤からプレーの精度を高めていく必要がある。

「ディフェンスで流れを引き寄せ、持ち味のアタック力を発揮したい」と闘志を燃やすSH徳原奨主将(3年)。「いかにタックルを決めて競り合いに持ち込めるかが上位進出のポイントになる。」

(佐藤亮真)



ラグビー

秋田中央

(3年ぶり9度目)

(27日~1月7日・大阪)

位置	名前	前	出身	身長	体重
PR	菅原健太郎③		秋田西	174㎝	90㎏
HO	渡部 正一③		男鹿東	168㎝	90㎏
PR	渡部 和樹③		将軍野	185㎝	111㎏
LO	鎌田 颯③		羽 城	182㎝	89㎏
LO	日諸 南海③		大 潟	178㎝	83㎏
FL	本城 玄②		将軍野	178㎝	80㎏
FL	吉田 光佑③		天 王	170㎝	74㎏
OS	三浦 駿平②		秋田南	186㎝	80㎏
SH	徳原 奨③		羽 城	175㎝	68㎏
SO	夏井 大樹①		男鹿南	172㎝	63㎏
WTB	松本 侑③		天王南	172㎝	70㎏
CTB	石田 捷③		将軍野	174㎝	68㎏
CTB	土橋 永卓③		大 潟	170㎝	75㎏
WTB	小山田陸人②		男鹿東	167㎝	70㎏
FB	船木 大夢②		男鹿南	173㎝	70㎏
補	夏井 隆一②		秋田北	169㎝	82㎏
〃	伊藤 大地②		羽 城	172㎝	77㎏
〃	夏井 愁②		男鹿南	170㎝	86㎏
〃	南都 幹央②		羽 城	181㎝	86㎏
〃	工藤 智亮②		飯 島	176㎝	77㎏
〃	桜田 拓②		秋田北	167㎝	65㎏
〃	夏井 勇大②		男鹿南	181㎝	70㎏
〃	鈴木 海星②		山 王	174㎝	74㎏
〃	伊藤 裕矢③		秋田北	168㎝	64㎏
〃	関向 和貴②		将軍野	176㎝	69㎏

(丸数字は学年、◎は主将)



花園に向け熱のこもった練習を続ける秋田中央の選手たち=秋田中央グラウンド

中央6T 初戦突破

第94回全国高校ラグビー大会第2日は28日、東大阪市の花園ラグビー場で1回戦の残り11試合を行った。秋田中央は若狭東(福井)と対戦。序盤から流れをつかんで計6トライを挙げて39-24で下し、6年ぶりに初戦を突破した。佐賀工は34-14で札幌山の手(南北海道)を破り、石見智翠館(島根)は仙台育英(宮城)に19-17で勝った。出場校中最多、53度目出場の大分舞鶴は青森北を43-7で下し、4大会ぶりの勝利を挙げた。秋田中央は、あす30日正午からの2回戦で佐賀工とぶつかる。(佐藤亮真)



【第2日】
53度目出場の大分舞鶴は青森北を43-7で下し、4大会ぶりの勝利を挙げた。秋田中央は、あす30日正午からの2回戦で佐賀工とぶつかる。(佐藤亮真)

▽1回戦

秋田中央 39 (1227-195) 24 若狭東 (福井)

若狭東 100-5 320-19
TGP前 TGP後
秋田 421-27 210-12
39計24
▽30分ハーフ▽キックオフ秋田中央▽レフ
エリール羽白

秋田中央は追い上げられた後半、FWがモールで強さを見せて粘る若狭東を振り切った。

前半5分、敵陣ゴール前5枚のモールを押し込み、サイドを突いたFL吉田が左中間に先制トライ。FW、BKが一体となってボールをつなぎ、3トライを追加した。

前半に4トライを決め主導権を握った秋田中央だったが、強化に力を入れてきたディフェンスが縮まらず消化不良のスタートとなった。

オフフェンスは、自慢のFWが威力を発揮。セットプレーで優位に立ち、モールを再三

若狭東(福井)振り切る



【秋田中央-若狭東】前半5分、秋田中央のFL吉田が左中間に先制トライ

兄の姿見て花園目指す
○3年ぶりに花園のグラウンドに立った秋田中央。エースCTB土橋永卓(3年)の兄・玄昇さん(山梨学院大3年)は前回、花園に出場した。

た2011年にWTBとしてプレーした。大淵中3年だった永卓は、兄の姿を見て花園への憧れを強くして努力を積んできた。

永卓は3人兄弟の次男。三男の右京君(大淵中3年)も含め、3人とも大淵小4-6年の時に大淵スポーツでラグビーに取り組んだ。

若狭東戦では、両親と兄弟が観客席から声援を送った。「息子たちに2度も花園に連れてきてもらい幸せ」と父・聡さん(47)。玄昇さんは「スピード勝負の自分と違い、永卓は接点が高い。自分たちができなかった初戦突破を果たし、兄として誇らしい」とうれしそうに語った。

右京君も秋田中央に進学し、ラグビー部に入ることを希望。「兄たちのように自分も花園に行きたい」と話した。永卓は「勝ち進んで家族を少しも長く花園にいらさせたい」と意欲を燃やした。

札幌山の青森北110-7
大分舞鶴43-14
新潟工210-12
荒尾300-15
黒沢尻北52-29
土佐塾000-0
佐賀工200-10

石見智翠館49-17
仙台育英210-12
長崎北陽330-21
北陽台440-28
新潟工33-11
荒尾300-15
黒沢尻北52-29
土佐塾000-0
佐賀工200-10

山形中央63-0
山形000-0
コサ53-0
静岡聖光82-0
学院100-0
倉吉北100-0
静岡聖光82-0
高岡第一15-10
近大和000-0
高岡第一15-10
近大和000-0
高岡第一15-10
近大和000-0

1人で止め切れず、チームディフェンスが崩れた。FWの縦突進、BKの横への展開と正攻法で仕掛けてくる若狭東に対し、後半になると運動量が落ちて突破を許してしま

い、揺さぶりについていけない。古谷和義監督は「2トライを先取して気持ちが緩んだ。ディフェンスが甘い。もっと

体を張り、相手に肩からぶつかってほしかった」と涙い表情。「初めての花園で緊張し、練習してきたディフェンスができなかった」とS日徳原英主将(同)は反省した。

2回戦は強力FWを擁する佐賀工。吉田は「気持ちを直して向かっていく」と引き締めた。

自慢のモールに手応え

押し込みトライにつなげた。モールの起点に2トライを挙げた下し吉田光佑(3年)は「県予選以上にモールの2、3列目のまとまりが良く、押し切る事ができた」と手応えを感じた様子。

カマサキ

カマサキ

カマサキ

カマサキ

カマサキ

カマサキ

カマサキ

秋田中央、モールに重点

◇ 全国高校ラグビー2回戦 ◇

FW戦鍵 きょう佐賀工と激突

第94回全国高校ラグビー大会第3日はきょう30日、東大・年連続43度自出場の佐賀工と阪市の花園ラグビー場で2回対戦。ともに自信を持っていて戦16試合を行う。初戦を突破するFW戦で、どちらが優位に



立てるかが試合の流れを左右しそうだ。

2回戦を控えた秋田中央は29日、同市の日新高クラウンドで調整。FWはラインアウト、モールでの動き、1回戦の課題として残ったタックルを重点的に練習。BKは人数が余った場面を想定した攻めや、タックルを受けた後のボールのつなぎ方を確認した。

佐賀工はノーシードながら上位をつかがう力を持つ。平均体重94kgのFWはセットプレーが安定し、モールからの攻撃も破壊力がある。判断力に優れるHBが操り、決定力のあるWTB、FBを中心としたBKでもトライを狙える。1回戦では、札幌山の手から6トライ中4トライをモールで奪った。

秋田中央の古谷和義監督は「モールで押し負けず、HBをフリーにしないことがポイントになる」と話す。186cmのナンバー8三浦駿平（2年）はチーム一の長身。「ラインアウトやキックオフの空中戦を制し、チームに流れを引き寄せたい」と意気込んだ。

モールの動きを確認する秋田中央のFW＝日新高クラウンド

中央、佐賀工に力負け

第94回全国高校ラグビー大会第3日は30日、東大阪市の花園ラグビー場で2回戦16試合を行った。秋田中央は佐賀工と対戦し、FW戦で劣勢になった後半に畳み掛けられて3-19で敗れ、6年ぶりの3回戦進出はならなかった。ノーシールド大分舞鶴がAシールド国学院栃木を31-19で破った。Aシールドの初戦敗退は第68回大会で東農大二(群馬)が作新学院(栃木)に4-16で敗れて以来、26大会ぶり。残るAシールド勢の東海大仰星(大阪第2)、東福岡は順当勝ちした。Bシールド勢は10校全て勝ち上がった。3回戦8試合は1月1日に実施し8強が出そろった。(佐藤亮真)

全国高校ラグビー

〈第3日〉

1日に実施し8強が出そろった。(佐藤亮真)

3回戦進めず

▽2回戦
佐賀工 19 (19-0-0) 3 秋田中央
中央 0000 0013
TGP前 TGP後
佐賀工 0000 32019
TGP前 TGP後
▽30分ハーフマキックオフ 佐賀工△レフ
エリール小堀

両チーム無得点で迎えた後半、秋田中央はFW戦で力負けし主導権を握られた。後半7分、秋田中央陣22メートル付近で佐賀工ボールのスクラム。秋田中央は、展開からの縦への切り込みを止められず、先制トライを奪われた。18分にF.L吉田がゴール正面30センチからPGを返して1

10メートル付近のラックからS.H田上にサイド突破を許し、ゴロパントでディフェンスがかかわられ3トライ目を決められた。

「来季は、花園でもっと長く勝ち続ける姿を父さんに見せたい」と三浦。親子そろって花園での雪辱を誓った。

鮮やかにAシールド撃破
○：番狂わせが起こりつらいう高校ラグビーでノーシールドの伝統校、大分舞鶴が金星に輝いた。集中力の高いプレ

原正和(諸城) 浦原大(本田) 橋田木(部部)
菅渡謙(日本吉) 徳夏(松石) 土小給(中) 中央
佐賀工 F W B B B
川丸(丸) 松流(上) 吉安(倉) 上野(尾川)
鶴黒(古) 栗川(石) 古大(田) 光常(津) 宮前(△) 交代(佐) 吉賀(堤) 上田(光) 吉(北) 村(鏡) 倉(益) 崎(鶴) 川(秋) 伊藤(裕) 谷(小) 山(田)

2人は自宅でもラグビーを話題にし、弘樹さんは自身の大学時代の映像を見せて、ア

先制トライは前半15分。PGを狙える場面で「モールで絶対負けられない自信があった」と主将が強気にラインアウトを選択し、集団になって

押し込んだ。中川監督は「選手の手成長に感動している。持っている力以上のものを出してくれた」と目を細ませた。



FW戦で体力消耗 中央

自慢のFWが全国の強豪の壁を打ち破れなかった。秋田中央は風上に立った前半に五分で渡り合うのがや

消耗させられた。後半7分に奪われた先制トライは、オープンからの縦突破を許し1次攻撃であっさり抜かれた。20分には、自分たちの武器としていたモールで押し込まれトライを決められた。

受け、マイボールでキャッチミスを繰り返した。「ミスで相手を勢いづかせてしまった」。スローワーのH.O渡部正一(3年)は唇をかんだ。

試合後、悔しそうな表情を見せる秋田中央の選手

で負けてしまったが、秋田中央のカラーは変えない。来季はどんな相手でも押しつけるFWをつくる」と強調。今季以上にFWを鍛え上げ、全国に再挑戦する決意を示した。



焦点

ナンバー8三浦駿平(2年)は「佐賀工のモールは、まとまりがあり簡単に崩れなかった。厳しい練習を積んできたが、スタミナで負けてしまった」と力の差を痛感した様子だった。ラインアウトでは、これまでにないきついプレッシャーを

古谷和義監督は「FW戦